

産学協働プログラム 「人生 100 年時代の都市・インフラ学」 中間講評会

2021 年 5 月 25 日 (月) @東工大 デジタルホール/ Zoom 同時開催

【コメントシート チーム 1】

野原先生

メイン/サブ、 主担当/副担当、 人/その他とのふれあいのバランスをととのえるインフラが要るなど、あらためて思いました。

真野先生

- ・100 年時代のライフシーンの変化に関して、「少しずれたぐらいの変化」「ハーフシフト」など、魅力的なキーワードが出ており、「出会いとコミュニケーション」に関係づけて詳細な検討をしていただければと思います。
- ・今後の展開に関して、「魅力的な場」とはどんなイメージで、その多様性は誰がつくり出すのか？都市・インフラレベルにどう絡めて行けるのかを興味深く見ております。
- ・最後の「100 年生きる人間が、どうやって人間社会や地球環境を豊かに出来るか」という視点が良いと思います。100 年生きる人の都市・地域の記憶や経験をどうアーカイブ化したり、シェアできるものにするのかなど、アプローチが色々ありそうだと思います。

浅輪先生

ご発表をいただきありがとうございました。当日も発言をさせていただきましたが、コミュニケーションや出会いの場は、会社起点、地域起点、趣味起点、SNS 起点など、どのようなものを想定されていますでしょうか？

それらに応じて、必要な場やインフラのイメージが議論出ると良いかと思いました。

コミュニケーションは、他のテーマにも共通するキーワード（横串？）だと、あらためて感じました。

室町先生

日本人の特性が阻害要因となる場合があるという議論に興味をひかれました。海外では日本人は公共の場における行動の統制がとれているというコメントが多いように思われますが、そうでない場面も少なくないということでしょうか。行動の統制そのものがコミュニケーションの進展の阻害要因になるということでしょうか。いろいろと興味深いところです。

鼎先生

大変興味深いご発表ありがとうございました。

少子化、あるいは少子化に歯止めをかけることなどを、今後の議論の一部に含んでいただくのもよいのではないかと思います（今後の他の班の発表中に出てきてしまうかもしれませんが）。

十代田先生

- ・野原先生の影響か、言葉選びが巧みでよい。
- ・出会いとコミュニケーションの関係が今ひとつわからない。
- ・人との交流が必ずしも人生に必要とされるわけではないという考え方はユニーク。
- ・メインとサブの場という考え方は大変良いと思う。